

(件名) 「北海道写真展」について

本年度、北海道銀行ウラジオストク駐在員事務所に着任した中本と申します。当事務所は2020年度、新型コロナウイルス感染症流行の影響でほぼ1年間業務を休止していましたが、2021年3月から日本人駐在員が現地に戻ることができました。コロナの影響で往来が限られる中、少しでもロシアが身近に感じられるような生の情報をお伝えしていきたいと思っております。

1 「北海道写真展」について

ウラジオストクの写真家による北海道の自然や文化をテーマとした写真展「北海道 夏の道」がウラジオストク市内のアートギャラリーで開かれました。

展示された写真は、ウラジオストクの若手写真家ヴァチェスラフ・フラシヨフ氏が2019年、日本政府観光局（JNTO）の招聘事業により来道した際に撮影したものです。富良野のラベンダー畑や余市のウイスキー蒸留所、登別・地獄谷といった名所のほか、苫小牧市科学センターに展示してある旧ソ連製の宇宙ステーション「ミール」といった、ロシア人作家ならではの視点の写真もあり、北海道の様々な風景が来場者の目を惹いていました。

この写真展は、新型コロナで日本への旅行がままならない中、日本の文化や観光の魅力をロシアの人々に広めようとJNTOと地元経済団体が主催したものです。オープニングセレモニーにはウラジオストク市関係者や多くの日本通の市民らが来場し、大いににぎわいました。セレモニーでフラシヨフ氏は「フランスのようなラベンダー畑や、カムチャッカの火山帯のような光景など、北海道には世界中の美しい風景が詰まっている。コロナの影響で自由に往来できないことを残念に思う」と挨拶していました。

こうした草の根の文化交流が、コロナ禍の収束後に花開き、ロシアから北海道への旅行者が増えればと思います。



(写真左) オープニングセレモニーでありさつする写真家のフラシヨフ氏

(写真右) 掛け軸や巻物をイメージした独特の展示形式が日本らしさを醸していました

2 北海道と極東ロシアとの観光交流について

新型コロナウイルス感染症による影響のない2019年度まで、ロシアからの来道者数は増加傾向にあり、同年には17,900人と1997年度の統計開始以来最多となりました（出典：北海道経済部観光振興課『観光入込客数調査報告書』）。2018年12月にウラル航空の新千歳ーウラジオストク直行便が就航しましたが（2021.10月現在休止中）、主な利用者が中国・韓国からの乗換え利用者だったこともあり、相互送客の機運が高まる前にコロナ禍に直面する事態となりました。

コロナ収束後の観光需要回復に向けては、ご紹介した写真展のような機会を捉え、北海道への旅行機運を高めていくことが必要だと感じました。